

業務改善の実施状況報告

組織名	中部森林管理局 木曽森林管理署南木曽支署	連絡先	050-3160-6070
所管する業務の概要	長野県南西部の南木曽町、大桑村に位置する国有林32,000ヘクタールを管理経営。中央アルプスや奥三界岳を源に木曽川に流れ込む伊奈川、阿寺、柿其溪谷などの清流を育むヒノキなどの美林は中山道妻籠宿などの背景林や景勝地などの観光資源でもある。これら森林の整備を通じ、産する間伐材は建築材や木工伝統工芸品の資材として供給するとともに、下流域の貴重な水源林あるいは山地災害の発生から住民を守る防波堤としての公益林の機能を維持増進させることが使命		

1. 職員の基本的な心構え・行動について	
・これまでの取組実績及び現在実施している取組	・今後の課題とその改善策
<p>【接遇】地域住民はもとより地元行政関係者、発注先現場代理人等の出入りが多い職場でもある当支署では、 (1)来庁者に対し「だれでもが案内人」として、名札の着用や声掛けを実施している。 (2)現場系職員も参集して接遇研修を実施するとともに、引き続きOJT的にも取り組むなど継続することとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多い日で100件近い電話もあるが、5コール目の「お待たせしました」の徹底と職名・氏名を相手方へ告げることを再徹底する。 名札は現場での着用場面も多く痛みも激しいことから木製名札の手作り更新を図り、顔写真入りの名札にする。
<p>【話を聞く】町村区域の7割近くが国有林、住民の生活に直接的に影響事案もあることから、 「沢が濁った、木が倒れ道が通れない」等の要請が年間を通じて寄せられる中、現場を確認し速やかな対応を心がけ、対処している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 要望やクレームに対し、「しっかり聞く」「速やかに現地確認」、「対応策を要望者に返す」を再徹底し、関係者の情報の共有と工事監督の心得「ワンデーレスポンス」を広く推進する。

2. 国民視点に立った業務の遂行について	
・これまでの取組実績及び現在実施している取組	・今後の課題とその改善策
<p>【地域要望と事業説明】管内町村の首長他担当者あるいは議員一同に会した行政懇談会、国有林視察会、さらには地元住民を対象として事業説明会等を開催し事業の目的や効果の説明、要望を収集している。</p> <p>また、町村・ボランティア等と連携した森林整備の企画、森で汗をかきながらの協働作業、マスコミにも取り上げられるなど広く国有林野事業をPRすることが出来た。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 懇談会・説明会の開催は定着しているが、使用資料は担当者の事業用資料が多い。 事業前後の効果が見て取れる例示写真、専門用語の置き換え等工夫の余地はある。 基本となるフォーマットを検討し統一するなど、事業実施の目的・効果を具体的に伝える工夫に更に取り組む。
<p>【部署間の連携】特定の区域で治山、林道、造林、生産等事業工期が交錯することもあり、発注時期、契約、事業の着手、監督員等の請負工事の状況を一覧にし、適時更新を行うとともに情報を掲示板で共有している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 工事の発注担当者間の情報共有はもとより、事業が交錯する地域の受注者側の現場代理人、所轄する当支署森林官、監督員により、事業の進捗状況、資材運搬、通勤路の基幹となる林道の通行の影響見通し等について情報の共有と協力を確認し工事の遅延の低減に努める。
<p>【リスクは軽減出来るもの】「ヒヤリハット」は誰にも起こりえる、他山の石ではないことを定例会議等で繰り返し話し合うとともに、日常業務で意識できるよう「あなたの失敗談を皆の為に話そうよ」として職場全体で取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 農林水産省のヒヤリハットの事例を当支署の業務に置き換え周知するなど、持続的な取組を推進する。
<p>【災害が発生時の対応等リスクの低減】国民視点の主旨を含め災害時の行動目標と緊急連絡体制を全職員にカードとして配布している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 町村等との連絡体制の確認。国有林の自然災害の発生に起因して住民への生活に影響が予想される国有林内又は近隣公共施設等の位置等を網羅的に把握・共有し、有事の際、優先的な点検、対応が出来るよう取り組む。
<p>【食の安全に関する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な森林整備の実施を通じて、森林の有する多面的な機能、とりわけ豊かな水を育む水資源のかん養機能の維持増進が「食の安全」にも寄与しているとの自負をもって業務に当たっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林環境教育の中で、森林の有する公益的機能発揮は、「食の安全」にも繋がっていることを更に意識したメニューとなるよう工夫し取り組む。

3. 業務を適切課都円滑に遂行するための職場環境作りについて	
・これまでの取組実績及び現在実施している取組	・今後の課題とその改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 過疎の山間地に位置する当支署、近隣の火事にも備え、職員による動力ポンプ操法訓練を実施している。 	

4. その他の農林水産省改革を進めるための取組について	
・これまでの取組実績及び現在実施している取組	・今後の課題とその改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 支署のホームページをより見やすく、わかりやすいものとするよう取り組んでいる。 	

